

# Keiba Global Front Line



# 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

倉田直弘

いささか旧聞に属する話で恐縮だが、11月15日に米国フロリダ州のガルフストリームパーク・ウエスト競馬場（旧名コールダー競馬場）で行われた開催で、ジョージ・ハンティ厩舎の馬が2勝をあげた。具体的には、第5競走に組まれたダート6ハロンの2歳メイドンを制したキムチズス

トライク(牡2、父スマートトライク)と、  
第7競走に組まれたダート1マイルのク  
レイミングを制したストームワーニングス  
(セ7、父シナモンシーケレット)が、いず  
れもジョージ・ハンディ調教師の管理馬だ  
ったのだ。

同じ厩舎の1日2勝など、日當茶飯事ではあるが、しかし、2勝したハンデイ師が御年92歳の翁であると記せば、大概の方は驚かれると思う。北美大陸北東部の二ユーリングランドを拠点に、調教師としてのキャリアをスタートさせたのは、海軍から退役した1946年だったから、今年で開業69年目という、“大”の字をいくつ付

けても間に合わないほどのベテランがジョージ・ハンディだ。73年に管理馬インペキヨニアスでG2アーカンソーダービーに優勝。同馬はG3ベインショアSでセクレタリーアトの3着に入った実績もある。この他、78年のG3ポストデイブSをルルボードで81年のG3イリノイダービーをパリストで、95年のG3ロイヤルパークHをディージエイズレインボウで制している同師は、

いささか旧聞に属する話で恐縮だが、  
11月15日に米国フロリダ州のガルフスト

1350を越える通算勝ち星を記録している。

ジョージ・ハンディ調教師の現在の管理馬は2頭。すなわち、2頭しかいない管理馬が2頭とも、11月15日の開催で勝利を収めたのだ。2頭の馬主はいずれも、バラ・アン・マクドナル女史。ハンディ師

にとて長年のクライアントだった故スキンップ・マクドナル氏の末亡人である。管理頭数こそわずかだが、引退について問われると「この自分に、他に何が出来るって言うのだ」と答えるのが定番で、当人に第一線から退くつもりは毛頭ない。前述

したように、管理馬の1頭は明けて3歳という若駒で、少なくとも同馬が現役生活を全うするまでは、ハンディ調教師も陣頭指揮に立ち続ける決意である。

“旧弊”という言葉があるように、年配者が経験と実績だけを盾にはびこると、その世界は歪むか硬直するかして、健全なる進化が覚束なくなるのが世の常だ。年

そのハンディ師が北米で最年長の調教師かと言えば、実はまだ上がいる。今年10月18日に、同じくガルフストリームパーク・ウェスト競馬場の第5競走に

組まれた、ダート6Fの3歳以上メイドンで勝利を収めたキードキャッシュ(セイ5、父キードエントリー)を管理するのは、このレースの1週間後に満95歳の誕生日を控えていたジエリー・ボゾ調教師だった。ボゾ師は今年5月30日、同じフロリダ州のガルフストリームパーク競馬場で行われた総賞金6万ドルのシーリリーハーDを、管理馬フラッターバイ(牝4、父コングラ

しかし一方で、人生終末の時まで現役として過ごすことは、多くの人々にとって夢である。制度に従い現役を退いた元調教師の中には、例えばジョージ・ハンディ師のように、管理頭数2頭で良いから馬のそばに居たいという方もおられると思う。ハンディ師やボゾ師の話題は、益々高齢化が進む我が国の社会に、一石を投じるものであったように思う。

ツツ)で優勝してステークス制覇も達成。北米では06年に、当時95歳だったノーブ